

活動例2〔生活〕 1歳児 2学期

『だだこね』

育てたい力

- ・自分の思いを表わそうとする力
- ・良い、悪いを知る力
- ・保育者の援助で気持ちの切り替えをする力

経験させたい内容

- ・生活の中で必要な言葉を保育者に伝え、保育者と一緒に言おうとしたり、自分で言ったりする。
- ・やりたい思いを受け止めてもらい、楽しむ。

1歳児10月 事例

〔クラスの実態〕

- ・男児6名女児4名計10名。保育園の生活にすっかり慣れ、保育者との信頼関係が出来ている。
- ・友達の名前を覚え呼び合ったり、同じ場で遊んだりしている。
- ・自分のマークが分かり自分のもの、場所にこだわりを見せている。
- ・自分のものにこだわりがある反面、相手のものに対し興味をもち、自分のものと同じように扱おうとしてトラブルも見られる。

〔指導や環境の工夫〕

- ・子供とのみたて、つもり遊びの中で、言葉のやり取りを楽しみ、生活に必要な言葉を伝えたりし、発語を引き出す。
- ・行動範囲が広がり、身の回りの色々なものを触ったり試したりしようとするので、整理整頓された保育環境づくりをする。

〔エピソード〕『かして！ だめ！』

A児とB児が同じ場で、それぞれに絵本を手に取り遊んでいたが、A児はB児の見ていた絵本が気に入り、横取りをしてしまう。機嫌よく絵本を見ていたB児は突然取られて大泣きした。そこで、二人の姿を見ていた保育者に「Aちゃん、取ったらダメだね、貸してと言うんだよ」と言われて、A児は「ダメ～！」と大泣きで絵本を抱え込んでしまう。

保育者の言葉を聞きながらも泣き続けるA児の気持ちが落ち着くのを待ち、保育者が「その本が欲しかったの？Bちゃんが見てたから貸してって言えばよかったね。一緒に言おうか」と言葉かけをした。すると、A児はうなずき、「カシテ」と自分で言うことができた。

A児の「カシテ」の言葉を聞き、泣いていたB児も泣きやんで二人で笑い合い、別の絵本を手に取り遊び始める。



予想される活動例

- ・みたて遊び
- ・名前を呼ばれて返事、あいさつ
- ・自分のものへのこだわり

〔2歳児へのつながり〕

- ・泣いたり、だだをこねたりした思いを受け入れてもらい、手助けしてもらうことで、したいことやして欲しいことを言葉やしぐさで伝えようとする力となる。